

日本株ファンドマネージャーの視点

『倉庫を見る』

※このレポートでは、日本株ファンドマネージャーが注目しているトピックなどを毎週お届けします。

先週は、事務用品通販大手アスクルの大型物流倉庫の火災がニュースとなりました。このニュースから、二つのことを感じました。一つはありきたりですが、火災の怖さです。2013年に造られた最新鋭の建築物であっても、鎮火まで何日もかかってしまうことがありうるということが分かりました。個人的に火災を学ぶ良いきっかけと思い、四谷にある消防博物館に行ってきました。最近の遠隔操作式消火装置から大正時代のはしご車なども展示されています。そんな昔からはしご車があったことは初めて知りました。無料で楽しみながら学べる設備になっていると思うので、皆様も近くへいらした際には訪れてみるのも良いかもしれません。

さて、もう一つの感じたことは、従業員の多さです。報道によると、出火当時、倉庫内では400人から500人が作業をされていたようです。過去にIRの方とミーティングをさせていただいた時の記憶では、最新式の倉庫で作業の自動化にも積極的に取り組んでいる印象がありましたので、意外に思いました。少し調べてみると、ピッキング担当の従業員まで商品を運ぶ自動倉庫型GTPを導入しており、さらに一部のピッキング作業については、アーム型ロボットを使って行うなどしていたようです。それでもこれだけの従業員が働いていたことから分かるように、自動化に適さない、もしくは、今の自動化設備では効率が下がってしまいコストが大幅に上昇してしまう作業があります。これは先週、他社の倉庫を見学に行った時に、実際に見聞きしてきました。

私が見学させていただいた倉庫は、玩具やビデオゲーム関連、映像・音楽ソフトを扱っている商社が運営しているものです。倉庫棟は3階建てで、延床面積は約2万5千平方メートルです。ちなみに今回火災のあったアスクルの倉庫は、3階建てで、延床面積は約7万2千平方メートルですので、だいたいその三分の一くらいの大きさになります。2001年に竣工し、当時としては最新の設備を導入されています。作業をされている従業員の数は、平常時で150人から170人ですが、玩具を扱っておられる関係上、クリスマス時期など忙しい時には220人から250人になるそうです。自動化に適さない作業の一つは、一部商品のピッキング、梱包です。大きさが不ぞろいで品種も多いことから、どうしても人の手に頼らざるを得ないようです。もう一つがフォークリフトを使った搬入です。こちらは自動化すると、非常に高額な設備が必要となることや、閑散差が大きいために、閑散期には設備余剰が常態化してしまうことがネックになるようです。これら以外の部分はかなり自動化されていました。今後は、従業員が行っている一部のピッキング作業において、補助システムの導入の推進や、人手不足の時代を見据え、初心者でもできるシステムの整備を進めるとのことでした。

東京近郊を中心に大型倉庫の着工が目につきます。次頁の図は倉庫の着工面積の推移を示していますが、リーマンショック後を底に、回復基調が続いています。しかしながら、1990年代のバブル期と比較すると、まだ水準が低いことが分かります。eコマースの拡大だけでなく、古い倉庫の更新なども見込めることから、倉庫の着工の拡大は続くと考えています。その恩恵は自動化設備だけでなく、従業員の作業を補助するシステムや機器にも及ぶでしょう。他の倉庫も見学させてもらいながら、自動化がもたらす効果などを考えていきたいと思っています。

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在におけるレポート作成者の判断に基づくものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



大和住銀投信投資顧問

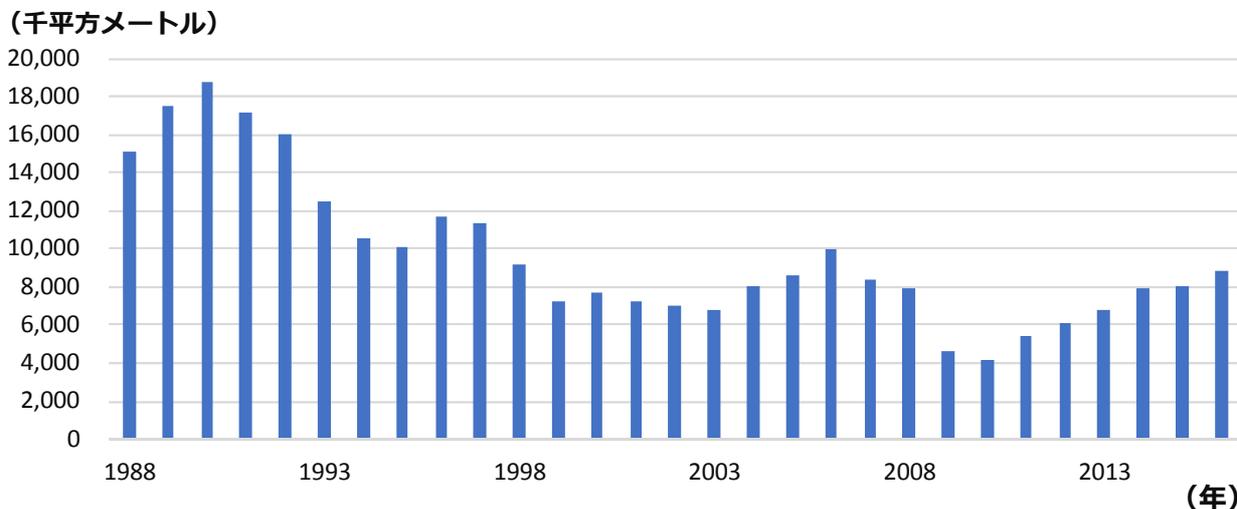
Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号

加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

【倉庫の床面積の推移】



(出所) 建築着工統計より大和住銀投信投資顧問作成

株式運用第一部
部奈 和洋

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在におけるレポート作成者の判断に基づくものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会